



立山室堂（富山）

**来るべき総選挙の勝利へ
1年延期した国賠同盟第40回全国大会に向け、国会請願署名の自主目標達成（滋賀県5000筆）と2万人会員拡大運動を成功させよう！**

都議選で立憲野党が躍進
野党共闘が大きな力發揮
7月4日投開票の東京都議選で日本共産党が19議席、立憲民主党が15議席を獲得し、自民党の33議席を上回りました。五輪中止を訴えた日本共産党、中止・延期を公約にした立憲民主党が議席を伸ばしたこと、「五輪開催NO」の明確な審判が下りました。また野党の共闘が大きな成果を上げました。定数2の文京区と北多摩4区で日本共産党が勝利、定数1の武藏野市と小金井市でそれぞれ立憲民主と無所属の野党統一候補が勝利しました。

都議選の結果は、来る総選挙において市民と野党の共闘を成功させれば、小選挙区での勝利が可能であり、政権交代、野党連合政権の実現が可能であることを示していま



滋賀県版No. 330

2021・7・15

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
〒113-0034
東京都文京区湯島2-4-4
平和と労働センター・
全労連会館

発行
滋賀県本部
〒520-0803
大津市竜が丘11-22-316
☎077-521-0884
・ 柚口 延

都議選で立憲野党が躍進
野党共闘が大きな力發揮
7月4日投開票の東京都議選で日本共産党が19議席、立憲民主党が15議席を獲得し、自民党の33議席を上回りました。五輪中止を訴えた日本共産党、中止・延期を公約にした立憲民主党が議席を伸ばしたこと、「五輪開催NO」の明確な審判が下りました。また野党の共闘が大きな成果を上げました。定数2の文京区と北多摩4区で日本共産党が勝利、定数1の武藏野市と小金井市でそれぞれ立憲民主と無所属の野党統一候補が勝利しました。

都議選の結果は、来る総選挙において市民と野党の共闘を成功させれば、小選挙区での勝利が可能であり、政権交代、野党連合政権の実現が可能であることを示していま

ます。

ご協力をよろしくお願いします。

柚口 延

5月の県本部改定で選出された新役員による幹事会において、新しい県本部体制が承認され始動しました。
ままで今までの事務局体制を見直し、財政、不届編集、署名管理、書籍管理と分業化を図り、担当を明確にしました。次に県本部内に専門部を設けました。これまで、女性部だけでしたが、今年度より組織部、不届編集部、学習部を設け、担当者を決めました。

ココナ禍のなか、署名活動と会員拡大の取り組みに制約を余儀なくされますが、同盟要求実現のため、皆さんの



県本部新体制が始動
事務局体制の見直し
専門部を設置

『わが青春つきるとも、伊藤千代子の生涯』 制作支援 滋賀の運動、8団体で始まる

県本部女性部 古谷 道代

『わが青春つきるとも、伊藤千代子の生涯』制作を支える滋賀の会（略称＝映画「伊藤千代子」滋賀の会）結成総会が6月28日開かれ、滋賀での伊藤千代子映画化運動が発足しました。結成総会には治安維持法国賀同盟県本部、新婦人県本部、滋賀県労連、民青県委員会、日本共産党滋賀県委員会が出席しました。結成総会では、出席団体

のほかに滋賀民医連、県母親連絡会、新興吟詠会滋賀県支部も「支える会」に参加を表明していました。これが報告されました。

総会では、政府が「戦争する国づくり」に走るいま、100年前の無権利の時代に、反戦平和と国民主権の声をあげた無名の女性活動家・伊藤千代子のたたかいを、多くの人に知らせることが平和と民主主義を守ることです。

運動のさらなる発展の一契機となると確認しました。

そして①「支える会」への団体参加を広く呼びかける、②「支える会」を地域でも結成する、③DVDを視聴する学習小集会を開く、④チラシ、募金封筒を活用し、「協賛募金・上映債権取得」運動をすすめを普及することなどを決めました。

県同盟では、全同盟会員に募金を訴えるチラシと募金袋を届けています。同盟が「伊藤千代子映画化運動」の先頭に立つことが求められています。

伊藤千代子

湖北支部 支部総会開催
事務局長 池田 安廣
去る6月15日長浜市リユートプラザにおいて国賀同盟湖北支部第15回総会が開かれました。参加者は、支部会員16人に加え、県本部より島田会長と袖口事務局長を

迎えて、18人となりました。審議は、前年度の総括、会計決算報告、今年度方針、今年度予算、新役員の決定の順に進定されました。議案書冒頭の「私たちを取り巻く情勢と課題」においては、コロナ禍のもとでオリンピックに固執する政権の愚かさと、同時にこれを「好機」として悪法を次々と成立させる政権の悪質さが指摘され、野党共闘による政権交代が喫緊の課題であることが確認されました。また前年度の取り組みの総括においては、国賀署名がコロナの影響もあってか前々年度よりもさらに減少したこと

が指摘され、今年度の方針においては、会員が何らかの署名の取り組みを行い、少なくとも会員自身が未署名という結果を作らないことが強調されました。事務局長に池田安廣さんを選任。



「指に絡む 名もなき小草 つと抜けば
かすかに泣きぬ 『我生きたし』と」

金子文子、一十三年のたたかい（二）

高田 直樹

1922年、朴烈と知り合った
金子文子は、彼と同棲してとも
に活動を始めます。

1923年9月1日、関東大震災
が起きました。翌2日に戒厳令が引
かれ、朝鮮人などの虐殺が広がります。

この混乱の中3日に朴烈と文子は
保護検束される。4日には「一定の
住居又は生産なくして諸方に徘徊す
る者」として警察犯処罰令により拘
留29日を即決。この日、川井義虎ら
南葛労働組合幹部10名が亀戸署に連
行、虐殺される（亀戸事件）。つづ
いて9月15日には、大杉栄、伊藤野
枝が6歳の甥と共に憲兵隊に連行さ
れ、虐殺される。

こうした流れの中で朴烈と金子文
子は皇太子（昭和天皇）の暗殺を企
図した大逆罪（刑法73条）の犯人に
仕立て上げられます。爆弾入手の相

色赤き
脚絆の紐を引き締めて

我還まじ 同志の歩みに

亡き友の
靈に捧ぐる我が誓い

思い出探し 九月一日

金子文子は、太番院の法廷にお
いて自身が天皇制に反対をして人
間の平等を追求する思想を持つて
いたことを明言します。

「私はかねて人間の平等と言ふこ
とを深く考えております。人間は
人間として平等であらねばなりません。
天皇は、わたくしども平民と違った人間ではありません。
私が二つ、口が一つ、歩くためには手もあ
りません。有島武郎や神近市子からもカンパを集めています。

この時、文子は特赦状をびりびり
と引き裂いて捨てました。それか

りながら、その足で歩かず、その手を持って歩かないという社会的な違いがあるだけです。」

担当判事は文子に対して七回にわたって転向するよう勧告しています。だが、文子は明確に拒否をして死刑の宣告を覚悟します。「お役人方君らの前に改めて勇敢に宣言しましょう。『私はね、権力の前に膝折って生きるよりは、むしろ死してあくまで自分の裡に終始します。それがお気に召さなかつたらどこなりと持つて行ってください。私は決して恐ろしくはないのです。』」（第3回被告人尋問調書）

1926年3月に文子は朴烈とともに死刑判決をうけます。その後10日後に恩赦により無期懲役に減刑されました。

この時、文子は特赦状をびりびりと引き裂いて捨てました。それか

ら間もなく栃木刑務所に移され、その年の7月に自死したのです。

「帝国日本」に焼した

激しい「生命」があつた

手足まで

不自由なうらば 死は自由なり

文子は1925年夏から市ヶ谷刑務所で3000字に及ぶ手記を書き上げ、同志の栗原一夫に出版を託しました。そして文子の死から五年後の1931年7月に『何がわたしをこうさせたか』と題して出版されました。文子は栗原に寄せた書でこう言っています。

「この手記は天地神明に誓つてある。呪われた私自身の生活の最後的記録であり、この世におさらばするための逸品である。」

文子は担当検事の板倉検事に宛てた書面で語っています。

「『生を否定する』ということは哲學的に成り立たない。なんとなれば生のみが一切現象の根本である。生を肯定してのみすべては定義を持ち得るから。さよう。生を否定した時それはすべてが無義である。否定から否定は生まれない。より強い肯定にのみ、より強い否定は生まれる。即ちより強く生を肯定してこそ、そこにより強い生の否定と叛逆とは生まれるのだ。だから私は生を肯定する。そして生を肯定するが故に、生を脅かそうとする一切の力に対

私は、文子の手記や公判記録を読んで、彼女の死は、感傷的な死へのあこがれでもなく、突発的な思いからでもない、覚めた意識から死を選んだと思います。死を選ぶことで自我を完結しようという強い意志を感じます。

文子は担当検事の板倉検事に宛てた書面で語っています。

「『生を否定する』ということは

哲學的に成り立たない。なんとなれば生のみが一切現象の根本である。生を肯定してのみすべては定義を持ち得るから。さよう。生を否定した時それはすべてが無義である。否定から否定は生まれない。より強い肯定にのみ、より強い否定は生まれる。即ちより強く生を肯定してこそ、そこにより強い生の否定と叛逆とは生まれるのだ。だから私は生を肯定する。そして生を肯定するが故に、生を脅かそうとする一切の力に対

して奮然と叛逆する。

そしてそれ故に私の行為は正し

い」と。

こういったらお役人さま方は、

じやなぜ自分の生を破壊するよう

な行動をするのだ? というだろ

う。私は答える一生きるとはただ

死を選んだと思いません。死を選ぶことで自我を完結しようという強

い意志を感じます。

明治社会主義運動は滋賀県にも及んでいます。

「平民政社日記」（荒畠寒村監修・太田雅夫編集）明治社会主義資料叢書」2 新泉社の1904年（明治37）年8月14日の記事に「7

日（日曜）午後、滋賀県長浜市の

闘争をよびかけたことは有名である。滋賀県では地方新聞「滋賀日報」が非戦論を唱えた。

明治社会主義運動は滋賀県にも及んでいます。

「平民政社日記」（荒畠寒村監修・太田雅夫編集）明治社会主義資料叢書」2 新泉社の1904年（明治37）年8月14日の記事に「7

日（日曜）午後、滋賀県長浜市の

を禁止した。

明治社会主義運動は滋賀県にも及

んでいます。

1903年（明治36）年11月、幸徳秋水、堺利彦らが「平民政社」を設立、「週刊平民政社」を創刊した。

1901年（明治34）年には社会主義研究会が社会主義協会に発展しました。1900年には社会主

義研究会が社会主義協会に発展しました。1900年には社会主

義研究会が社会主義協



国賀同盟県本部33回総会の席上で「伊藤千代子追悼詩吟」を発表する新興吟詠会滋賀県支部の皆さん
(5月22日、人津市・平野市民センター)

(5月22日、大津市・平野市民センター)

代さんとともに「伊藤千代子をたたえる詩吟を作つて映画成功の一部にしよう」と発案、新興吟詠会滋賀県支部と国賠同盟滋賀県本部との共同作詩を木越暁さんに依頼、今回の「伊藤千代子詩吟」発表吟詠となりました。新興吟詠会県支部長の馬場勝さんも含め同盟滋賀県本部総会のあと7月11日に開かれた同盟大津支部総会でも同詩吟を新興吟詠会滋賀県支部全員で吟

日午後、大津市膳所の平野市民センターで国賠同盟滋賀県本部と共に制作の「伊藤千代子詩吟」吟詠発表を行いました。その後、この「伊藤千代子追悼詩吟」は新興吟詠会の全国各支部で詠い継がれ、映画の支援運動の中で全国的な広がりを見せて います。

伊藤千代子は反戦とジェンダー平等の活動に青春をささげた人。

新興吟詠会滋賀県支部と同盟県本部共同制作の
「伊藤千代子追悼詩吟」が全国で広がっています

國賄同盟方洋文部屬文部長，新興地圖公縣文部屬文部長

八
胡

国賠同盟県本部女性部長の古谷道代さんは運動方針として「これを機に県内各地で新興吟詠会との共同で伊藤千代子吟詠を吟じてジェンダー平等精神を語り継いでいきたい」と話しておられます。新興吟詠会本部（大阪市）もジェンダー講師派遣などで全面協力を約束しています。

この詩吟を聞いた参加者から「漢詩は難しいものと思っていたが、これは分かりやすい詩吟で伊藤千代子のこともよく理解できた」「東雲（しののめ）暗く治安維持法に倒れの表現など感動的な漢詩」などの声が寄せられています。

紹介され、記事を読んだ東京、北海道からも楽譜と詩吟パンフを送つてーとの便りが大阪本部に寄せられています。新興吟詠会の中田進会長からも「この伊藤千代子詩吟は大きな励みになります。大阪での運動の責任者として感謝、大阪でも会のほか映画支援大阪実行委などでも吟詠しあげていきます」と話しておられます。伊藤千代子の映画化（来年春から上映予定）は時代閉塞の今日を打ち破る大きな力となっています。県内各地でもこの映画支援の吟が広まりますよう念じてやみません。

7月11日、大津支部第25回総会開く
都議選の結果受けて熱心な講

大津支部は 7月11日、大津市の

意見が出されました。

都議選の結果

にて熱心な議

論展開

国賠同盟県本部女性部長の古谷道代さんは運動方針として「これを機に県内各地で新興吟詠会との共同で伊藤千代子吟詠を吟じてジェンダー平等精神を語り継いでいきたい」と話しておられます。新興吟詠会本部（大阪市）もジェンダー講師派遣などで全面協力を約束しています。

この詩吟を聞いた参加者から「漢詩は難しいものと思っていたが、これは分かりやすい詩吟で伊藤千代子のこともよく理解できた」「東雲（しののめ）暗く治安維持法に倒れの表現など感動的な漢詩」などの声が寄せられています。

紹介され、記事を読んだ東京、北海道からも楽譜と詩吟パンフを送つてーとの便りが大阪本部に寄せられています。新興吟詠会の中田進会長からも「この伊藤千代子詩吟は大きな励みになります。大阪での運動の責任者として感謝、大阪でも会のほか映画支援大阪実行委などでも吟詠しあげていきます」と話しておられます。伊藤千代子の映画化（来年春から上映予定）は時代閉塞の今日を打ち破る大きな力となっています。県内各地でもこの映画支援の吟が広まりますよう念じてやみません。

う盛況だった。座間が「滋賀日報社に村下鶴甫を訪ぶ、氏は日露戦争當時非戦論を唱道され今尚ほ警察官より社会主義者として注意されるとの事也」と記していることも紹介しておこう。

河村藤一郎も村下鶴甫も、2年前に山口義三らが会つた滋賀の社会主義者である。

1910（明治43）年、天皇制政府は、幸徳秋水ら無政府主義者が天皇暗殺企てたとするいわゆる「大逆事件」をデツチあげ、幸徳・秋水ら12人を死刑、

同盟滋賀県本部では「新宮に大逆事件を訪ねる旅」を2回おこない、崎久保誓一の生家も外観だけであるが訪れることができた。

追記

崎久保は秋田監獄で18年の獄中生活のち仮釈放、1955（昭和30）年10月30日に死去した。

すれ
た。大逆事件の犠牲者の一人、崎久
保誓一（死刑から無期懲役に減
刑）は、死刑となつた（和歌山県
新宮市の）大石誠之助の自宅にあ
る「牟婁新報」新宮支局員であつ
たが、その以前は「滋賀日報」の
記者で、社会主義者を自称してい

12人を無期役、2人を有期懲役とした。この凶暴な大弾圧は社会主義者のなかに大きな動搖と後退をひきおこし、「冬の時代」がおどりました。



「好，那我再說一遍：這個人你一次不能讓他變亂了。就是說你不能
一次不能讓他變亂了。大老爺子你說，老爺子，老爺子，你不能讓
他一次不能讓他變亂了。」

そんな大変な生活ではあつたが、父母は町内に心躍らす人を見つけた。まず、中学生を中心にして「子供会」を、それを支援する「父母の会（それまでの「父兄会」ではないとよく言つていた）」をと町内の大人達に働きかけ、起ち上げた。毎月の様に、春祭り・地蔵盆・幻灯会・映画会・水泳会・写生会・運動会・クリスマス会なども会行事を支援した。夏には紙芝居「広島の子（佐藤忠良絵）」「原爆の子」を市立図書館から借りて、見せてまわつた。自宅に30冊の児童図書を借りてきた。

の人ばかりが住んでいる部落があつた。屋根は低くひしめき合つて、何処から何処までが一軒か分からぬ、所謂バラックだつた。どうも水道蛇口が道路端の一ヵ所しかないのか、顔を洗う、洗濯、炊事等がここでなされている様子であつた。就学時に上半身裸体の男の人が顔を洗い身体を洗う様子を目にする、異様さと野蛮さを感じて、怖かつた。同じクラスに「男の子S」がこの部落から来ていた。言葉も不自由、字も書けない。体力は良く、力だけが頼りであつたかもしぬれない。私は6年間同じクラスだったが喋った記憶がない。小学校学区には、私達の住

集団が出来る。そして集団で授業をエスケープする。放課後は地域で次々と問題を起こす。高学年になると担任教師は警察へ、児童相談所へと呼び出された。親達の協力を得る体制はなかったと思われる。女性の教師が、男性の教師に頼んだのか、職員会議で決めたのか、ある日、近くの山から帰ってきた男子生徒を並ばせた。そこへ他クラス担任教師が入ってきて、いきなり全員に「ビンタ」をくらわした。こうした事が、事ある毎に教室で繰り返された。

30年後の同窓会で、「ビンタ」教師は「特攻」の生き残りであつ



きざみネギを載せたものだけが夕食であつたりした。紙芝居を始めたて15年ほどの間に、ソロバン塾・お習字教室へ通う子どもが増え、更に「学習塾」が徐々に低学年化した。東京オリンピックの年からテレビを置く家庭が増え、子どものお小遣い事情も変化し紙芝居をお見に来る子どもは激減、廃業した。病院の事務仕事に誘ってくれ

りて来て、日曜日を除く全ての放課後に「図書の日」を開いた。母が当番を引き受けた。学期ごとに感想文を募集し「感想文大会」をして、どの子の文にも評価の言葉を添えていた。

小中学校生活を振り返ると良くぞ通り通したと思う事が山程ある。まとめていうと「戦争が残したもの」である。通学路端に朝鮮

宅以外に「引き揚げ者住宅（終戦直前に突貫工事で造られたであろうベニア作りの陸軍病院が撤退した後を、エニア板で仕切つて住宅としたもの）」と「アヒル・ヤギ・豚を飼っている地域」等があり、貧しい生活が見えていた。

新京駅（現長春）から大連までの800キロを数日かかつて無蓋の貨車で運ばれた。周囲に荷物を置き男性（20歳から40歳代の男子はソ連に抑留されており、年寄りばかりが残された）が座る。私はお腹を壊していく大変だったらしい、私も辛い悲しい不安な想いが残っている。

湖蘆島からの引き揚げ船は、米軍の戦車運搬船（なかにしぜいの手記）。広い船底、毛布が与えられていた。暑苦しい、甲板へ出たくなる。客船でないから甲板の手すりは小さい子どもはすり抜けられる程に高く、風が吹いたら飛ばされ海に落ちるという恐怖が伴う。ある時、お棺を縄で吊り下げて渦に、シュツと巻き込まれて海底に沈めた。その後、棺が無くなつたのか、蓮（むしろ）に撒かれた

遺体を葬る瞬間もみた。観てた人が手放した真っ白い手ぬぐいが、ひらりと舞つて渦に巻き込まれのもの見た。

山口県千崎港に入る。青く深い海と山（青島）と松が優しく美しい。「日本だ！」

「日本に着いた！」「帰れた！」と感激する大人達の中にあつたからか、きれいだ、嬉しいという感情が鮮やかな松の緑と結びついて今も心にある。同時に着いて伝染病患者が出て全員が上陸できずに留め置かれた船もあつたという。

1946年8月、本土での生活が始まる。引き揚げ者としての生活は、リュック一つでの帰還であつたから「売り食いに当てるもの」はない、「配給」「買い出し」など、周りの人達と同じであった。父はこれと言った資格を持たず、いわゆる手に職もなく、

に就いた。トウモロコシやサツイモの粉しか当たらぬ生活であったので、母は、父が持ち帰「いかの肝臓」が当时唯一の「んぱく源」だった、有難かつた話していた。父はそんな生活が、心には、〈さあ、これから子どもの成長を大切にする文化育てる時代だ。教育の民主化と、域に「児童館」を〉と思いを膨ませ、自分も子どもたちの着るのは全て親戚からのもらい物とう生活であったのに、親戚へ「金繰り」をして回ったという。戚の伯父、従兄、兄弟の中には人程医者がいたが、父の話で「まず自分の力で子どもたちをさせてから言いに来い」けんほろんだつたと言つ。

や「甘辛く煮たスルメ」等の準備に大変だった。父は器用な人で紙芝居の舞台（箱）、お菓子を入れる引き出し付きの箱などを作り、「影絵の人形」なども作っていた。その語り口は年季が入つていて、中でも津軽弁が好きで、歌・土地の人の詩を語つてくれると、子ども心にいい気持ちになつた。

父は、子ども達に童話・歴史上の人物また岩木山と桜、津軽の海のこと等々たくさん聞かせてくれた。父が亡くなつて20年余りして、紙芝居で回つていた街で、「Kさんの紙芝居を見ていた」という人（1940年生）に出会えた。「たくさん紙芝居屋が来たのが、Kさんが一番じょうずやつた、毎日楽しみやつた。」と話してくれた。

紙芝居屋家業は徐々に困窮し、家計は火の車。メリケン粉を溶いて焼いたベタ焼の上に、削り節と

治安維持法に抗した 父と母 そして私

·M
子

伯父のおかげで住居を得られたが、収入はなかった。まず収入のため、食品缶詰工場の夜警の仕事を

や、自分の将来に夢を持てる子供もを一人でも多く育てたいと「紙芝居屋」に決めた。母は、「餡

その頃、母が隣の奥さんとひそひそと「特攻」帰りの娘さんをマサカリで斬りた」と言つているのを聞いた。近所の話しではなく、新記事の事か「特攻」という言葉を知らないのに、その響頭の中に残つていた。

(二八)

す、朝鮮人ばかり追いかけ回し暴力をふるつたといいます。捕まつたのもほとんど朝鮮人で、検挙者のうち釈放直後に二名が死亡しました。『新大津市史』が伝える「朝連側」の証言によると、「いきなり警官が襲いかかってきたから身を守るために抵抗しただけだ。退去命令など聞いていない。それどころか逃げるひまさえなかつた」そうです。

事件後に東京から大津に駆けつけた検事総長は記者団に対しても「騒擾罪」を適用すると述べました。しかし結局は不法侵入と公務執行妨害での起訴となり、不法侵

新しい事務局の体制になつて初めての『不^{要論}より』『届』の発行となりました。これまで編集から印刷までお一人で引き受けた西田清さんに厚くお礼を申し上げます。

不屈滋賀県版は皆さんのご協力なしには出来ません。会員の近況報告、映画や演劇の感想から、短歌、俳句、本の感想などジャンルは問いません。気軽に編集部までお届けください。

入は全員無罪、退去命令も無効であると判断され、有罪となつたのは退去命令の執行に対する公務執行妨害だけでした（退去命令が無効なのはどうして公務執行妨害になるのか疑問ですが）。『新大津市史』は、おそらく今となつては入手できない能勢克男弁護士の弁論資料をふんだんに引用しながら裁判についても書かれているので、次回も引き続き大津事件について書いて行きます。

「私が原発を止めた理由」(櫻口英明著)を読んで

卷之三

卷之三

卷之三

るうなどして相当数の負傷者

要求して実力行使に入り棍棒

定額地で得てしよした

鮮人の老若男女は検察庁の拉

正と面会している間、集まつ

が子本ハ本道指標不作間
故ニ廻戻せらるるに代表して

村守、そして朝連元幹部の朴

た。日本共産党の横井弥一郎

警察事件はその少し後に起きた

の労働者と警官の衝突は朝一

概要はこうです。職業安定

して、いるからです。

おどしでいた。そこには

もので、事実と異なる部分が

の警察、検察側の立場を代弁

凶暴な印象づけようとした

く書き立てる当時の滋賀新聞

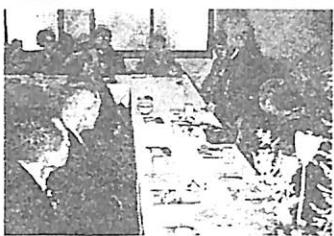
に武装反乱でも起こつたかの

『新大津市史』は、まるで

けて、同じ十一月一日に起き

不屈滋賀県版
読者の広場

ひよば



私(木越暁)が撮った講演する柳原白蓮(右奥の立っている人)
1955年9月、京都七条大橋東にあつた中外日報社の2階ホール

NHK総合の連続ドラマ「花子とアン」(毎週月~金曜日午後4時20分~50分、大相撲中はなし)は人気番組の再放送だが、明治、大正、昭和を生きた歌人柳原白蓮が主演の村岡花子と共にもう一人の主役になつていて私が会出つた歴史の人として思い出深い人だ。

ジエンダー平等を実践した
明治・大正・昭和の歌人 白蓮

国賀県本部幹事・大津市
元京都新聞記者 木越 暁

左上の写真が私が撮った柳原白蓮女史が講演している京都・中外報社での写真。時期は1955(昭和30)年9月、たしか柳原女史が8月に広島で行われた第1回原水禁世界大会に参加された報告だったと記憶しているが「封建的な社会とたかいの人生だったが、実の愛と自由を得ることができて私は幸せでした」と語つておられたのが印象的だった。

1年生の20歳。その後、私は滋賀日日新聞記者を経て京都新聞記者として眞実の報道に携わってきたが、記者としての原点を教えていた人として忘れない。

私が出会った歴史の人 柳原白蓮

NHK総合の連ドラ再放送でも大反響

「花子とアン」の村岡花子と共に2人主役として話題に

この時、白蓮 女史が70歳、私は中外日報記者 1年生の20歳。その後、私は滋賀日日新聞記者を経て京都新聞記者として眞実の報道に携わってきたが、記者としての原点を教えていた人として忘れない。

柳原白蓮のふところに飛び込み、その後の一生を平和運動に捧げた魁の第一人者だつたと思う。

白蓮も平和運動の第一人者

それは、あの封建時代にジエンダー平等を主張し実践した数少ない女性の一人だつた。伊藤千代子がドイツのアウグスト・ベーベルが書いた「婦人論」を読んで目覚めた昭和初期の時代より遡ること10年前、柳原白蓮は華麗なる生活を捨てて学生運動家のふところに飛び込み、その後の一生を平和運動に捧げた魁の第一人者だつたと思う。

柳原白蓮は大正天皇の生母柳原伯爵のつながりで大正天皇の従妹に当たる人。「白蓮事件」で宮内省は白蓮を華族除籍処分にするが戦後の華族制度全廃に

もつながるきっかけとなつた。「花子とアン」のNHK連ドラではこれから終盤にかかり、学徒出陣中の香織の戦死を知らされて詠んだ「英靈の生きてかへるがありといふ、子の骨壺よ振れば音する」の詩も出てくる。オリンピック関連で放送がさらに延期されるかもしれないが、自宅で過ごすとの多くなつてている昨今、伊藤千代子とは違つたジエンダー平等物語として「花子とアン」連ドラ再放送を見せてください。



晩年の柳原白蓮
(1955年秋、70歳)



若きころの柳原白蓮
(1908年ごろ、23歳)